

## 令和7年度 岩手県農業研究センター試験研究成果書

指導	りんどうにおける TPN 水和剤散布時の展着剤加用による薬斑軽減効果
【要約】りんどうで TPN 水和剤散布後に葉面に発生する薬斑は、各種展着剤を加用することより発生を軽減することができる。	

## 1 背景とねらい

りんどう栽培で TPN 水和剤（商品名：ダコニール 1000）散布後に、葉面に白色薬斑が発生し外観を損なうことが問題視されている。本試験では、薬斑軽減対策としてダコニール 1000 に各種展着剤を加用した効果を検証する。併せて、高温条件下での散布による薬害の有無や程度も検証する。

## 2 内容

- (1) 展着剤を加用せずにりんどうへダコニール 1000 を散布すると、葉面に白色薬斑が生じる（表 1、図 1）。
- (2) 各種展着剤を加用することで、葉面の薬斑は軽減される（表 1、図 1）。
- (3) 展着剤加用散布では、薬液が溜まりやすい部位に薄い白色薬斑が認められるが、その程度は軽微である（表 1、図 1）。
- (4) 花卉の薬斑は、展着剤の有無にかかわらず軽微である（表 1）。
- (5) 高温時の散布では、花卉の縁が退色する薬害が確認された（表 1、図 2）。

## 3 活用方法等

- (1) 適用地帯又は対象者等 県内全域 農業普及員、J A 営農指導員
- (2) 期待する活用効果 ダコニール 1000 の薬斑対策指導の参考となる

## 4 留意事項

- (1) ダコニール 1000 に限らず他の薬剤も薬害が生じる可能性があるため、高温時の散布は避ける。
- (2) ダコニール 1000 は、花卉に付着すると漂白、退色を生じる場合があるため、着色期以降の散布は避ける。

## 5 その他

- (1) 関連する試験研究課題  
(H30-10) 地域特産物における新防除資材の実用化 [H30~R7/国庫補助]
- (2) 参考資料及び文献等  
なし

## 6 試験成績の概要（具体的なデータ）

表 1 各種展着剤加用によるダコニール 1000 の薬斑及び薬害の発生程度

供試薬剤 (ダコニール 1000)	展着剤 希釈倍数	散布日	葉の薬斑 <sup>1)</sup>	花卉の 薬斑 <sup>1)</sup>	花卉の 薬害 <sup>2)</sup>
単剤（展着剤無加用）	—		(+)	(±)	±
+ドライバー	5,000	7/4、 7/10	(±)	(±)	±
+アプローチ BI	1,000		(±)	(±)	+
+ワイドコート	10,000		(±)	(±)	±
+クミアイニーズ	2,000		(±)	(±)	+

品種：いわて夢ぎんが、生育ステージ：開花期

1) (±)：薬斑が認められるが実用上問題ない程度、(+)：薬斑が認められ実用上問題がある。

2) ±：薬害が認められるが実用上問題ない程度。+：薬害が認められ実用上問題がある。



図 1 各種展着剤加用による葉面の薬斑（1回目散布後（7月4日））  
※頂部から20 cm下の葉をサンプリング。

試験概要) 散布時（7月4日）気温：28.4℃、風速2.0m/s、散布量：300L/10a、散布方法：  
肩掛式手動噴霧器で散布。  
機能性展着剤のみを対象とした試験であり、一般展着剤は試験しなかった。



図 2 花卉に発生した薬害（2回目散布1日後（7月11日））

試験概要) 1回目散布日（7月4日）の最高気温は31.8℃であり、以後2回目散布まで日最高気温が30℃を超える日が連続した。

【担当】生産環境研究部 病理昆虫研究室